

九州西部高浜変成岩類の構造解析～マイロナイトユニットと結晶片岩類の接触時期～

Structural analysis of Takahama metamorphic rocks, western Kyushu: timing of contact between mylonite unit and crystalline schists

有馬 和宏[1]; 池田 剛[1]

Kazuhiro Arima[1]; Takeshi Ikeda[1]

[1] 九大・理・地球惑星

[1] Earth and Planetary Sci., Kyushu Univ

九州西部天草高浜地域の高浜変成岩類は変成度の異なる2つの岩体から成る。緑れん石 - 藍閃石片岩亜相の結晶片岩類とグラニュライト相高圧部のマイロナイトユニットである。結晶片岩類中の変形構造は2つのステージに分けられる。初期の変形ステージでは褶曲軸面に平行な片理が発達する。後の変形ステージでは片理が曲げられる。高浜変成岩類の南部にあるマイロナイトユニットと結晶片岩類の境界付近では、マイロナイトユニットの構成岩石の1つである角閃岩が結晶片岩類中にレンズ状に産する。角閃岩はマイロナイトユニットの構成岩石の1つである。角閃岩中にはアクチノ閃石から成る片理が発達している。角閃岩の片理面と結晶片岩類の片理面は平行である。つまり、結晶片岩類が初期の変形を被ったときには既にマイロナイトユニットと接していた。角閃岩中にアクチノ閃石をリムにもつホルンブレンドが見られることから、マイロナイトユニットは後退変成時に結晶片岩類と接触した。